



修郎先生の事件簿

小池雄一氏

～就労ビザ専門会社の現場から～

佐生修郎（さしゅう・しゅろう）は就労ビザ専門会社で働くコンサルタント。その幅広い知識と長年の現場経験、それに深い洞察に基づきさまざまなアドバイスをを行い、数々の困りごとを解決してきた。座右の銘は「真面目に不真面目」。

鈴木一郎 大変だ、大変だ。新しく駐在員で来る誠也君の312就労ビザの申請が始まらないのだよ。佐生修郎 鈴木誠也君か。あ。広島工場で実績をあげてついにインドネシア現地法人にやってくるのだね。楽しみだ。

鈴木 始まらない理由は？ 何なんだろう。 佐生 それは「推薦状」が未だ取れていないからに違いない。今、コロナ禍で312就労ビザを申請取得するには、PSN国家戦略プロジェクトもしくはOVN国家重要地域に関連していて、それを所轄する管轄省庁からの「推薦状」が必要だ。それがあれば、「国外に居る人」向けであって、も労働省は申請を受けてくれるぞ。（逆に今までは

「推薦状」が不要であった「国内に居る人」向けにも「推薦状」が要求されるようになった。従来通り、PSNプロジェクト関連の外国人労働者は管轄省庁に「推薦状」を依頼すれば良いね。 鈴木 うちの製造会社は、OVNに指定されている日系工業団地のテナントだから工業団地を管轄する「工業

推薦状をゲットしろ！

省」へ「推薦状」を申請した。でも、受け付けてもらえず「海事・投資調整省（Menteri Koordinator Bidang Kemaritiman dan Investasi）」へ申請するようになって言われてしまったんだ。

佐生 9月17日付「イミグレ総局長からのガイドライン」の影響だ。そのガイドラインには「推薦状」は「海事・投資調整省」が管理する旨が謳われている。鈴木 ルフト・パンジヤイタン海事・投資調整相

の部署だね。 佐生 そうだ。彼は政府内でもそのブルドーザー的実行力が認められて、夏くらいからコロナ対策においても指揮を執るようになってきた。実行力のある人だから「推薦状」もきつと確実に出してくれると思うよ。 鈴木 「海事投資調整省」の下で「推薦状」申請のためのウェブサイトに既に公開されているらしいね。（<http://bit.ly/rekontka>）

佐生 その申請サイトに入り、申請者名や企業名を入力してPSNかOVNかを選択し、就労ビザが欲しい人の情報（氏名、パスポート番号、ポジション名など）を入力して書類をアップロードすれば申請ができる。

鈴木 どれくらいの時間がかかるのかなあ。 佐生 条件を満たしていれば、8〜14営業日で発行されて来る見込みだ。実は既に発行されてきた実績もあるぞ。これから申請が殺到し混みあって時間がかかると可能性は多分にあるけどな。

鈴木 まずはウェブサイトを開けて申請してみることだね。 佐生 事前確認は必要なことだけど、それには十分に時間をとられていては、後手に回ってしまうぞ。鈴木 とここで、PSNやOVNではない企業はどうなるの？

佐生 良い質問だ。PSNやOVN以外の企業は、BKPM（投資省）に「推薦状」を申請することになる。BKPMも海事・投資調整省配下の部署だから結局、その管理下で「推薦状」が出るという事になる。

鈴木 でも一体どうやって申請すればよいのさ？ 佐生 BKPMの場合、申請用ウェブサイトはない。だからBKPM内の「推薦状」担当者に直接に申請をする。担当者がわからなかったらビザエージェンツに依頼するの良しよ。鈴木 確かに。いつもは自社でやっているけど、今回は一時的なものだし、混乱だから専門のエージェンツを使うのも良い手段からかもしれないね。それで、どれくらいの日数で発行されるの？

佐生修郎 心得の条
一 新規312就労ビザ申請に必要な「推薦状」は、PSN、OVNに関連している外国人労働者かどうかで申請の仕方が変わってくる。いちばん早く取れそうなやり方で進めること。
二 目まぐるしく状況が変わるので、事前確認にばかり時間をとられると後手に回る。ある程度事実関係が見えてきたら「やってみる」という意識で一步を踏み出すことも必要。

佐生 こちらも8〜14営業日だね。鈴木 それじゃあ、海事・投資調整省へウェブサイトに経由で申請して、BKPMへエージェンツを使って申請して、どちらも並行して申請しちゃおうかな。佐生 グッドアイデア。

費用の問題さえクリアできれば、両方に申請して、どちらか早く出てきた「推薦状」に基づいて労働省へ申請を開始する。どちらが早く取れるのかというのがポイントだ。たとえ2カ所から「推薦状」をもらってしまっても何も問題にはならない。

鈴木 少し灯が見えてきたよ。 佐生 灯は見えている。考えてばかりいないで、その灯に向かって一步を踏み出す事だね。そうすれば神様が手を差し伸べてくれるはずだ。

こいけ・ゆういち FCPCインドネシア代表取締役。89年学習院大卒、日本アイ・ピー・エム入社。フジスタツフへ転職後インドネシアでの事業開発を手掛ける。帰国後に独立。「夢ある街のたいやき屋さん」FC経営を経て、12年8月より現職。栃木県生まれ。55歳。

※本連載は、実際に起きた事例を参考に、インドネシアに滞在、就労する上で気を付ける点について説明するもので、登場人物や事象はフィクションです。実際の事案に対応する場合は、専門家に相談の上、各自のご判断でご検討ください。
「修郎先生の事件簿」は、原則、毎月第1水曜に掲載します。